すべては「拓殖人材」育成のために

学校法人

拓殖大学
教育ルネサンス
2030

中長期計画

第Ⅰ期：2021年度～2025年度
第Ⅱ期：2026年度～2030年度

拓殖大学
Takushoku University

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

拓殖大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

index

1.「拓殖大学2030教学経営会議」の設置について ____ 2

2. 本学の建学の理念と「教育ルネサンス2030」に向けて ____ 3

3. 学校法人拓殖大学 中長期計画『教育ルネサンス2030』の策定について ____ 4

拓殖大学

ビジョン ____ 6

教育・学生支援 ____ 7

教職員・人事（研修） ____ 10

施設・設備 ____ 12

経営・財務・その他 ____ 13

拓殖大学北海道短期大学

ビジョン ____ 15

教育・学生支援 ____ 16

教職員・人事（研修） ____ 18

施設・設備 ____ 19

経営・財務・その他 ____ 21

拓殖大学第一高等学校

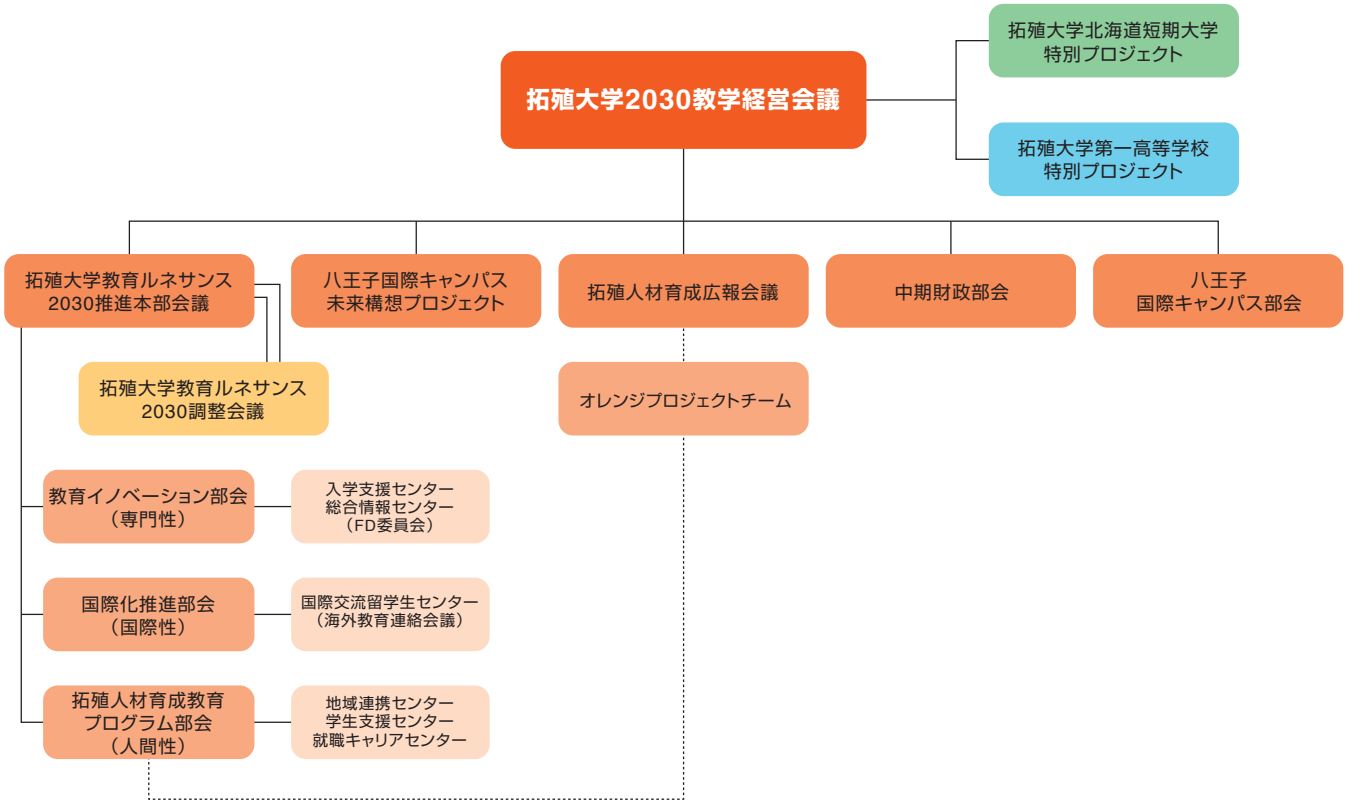
ビジョン ____ 23

アクションプラン ____ 24

2030年に向けて、本学の使命を達成するために「拓殖大学2030教学経営会議」を設置しました

本学はこれまで2020年を見据えて法人の財政基盤の確立と教学改革『教育ルネサンス2020』（2015年～2020年の戦略）を進めて来ましたが、この度、10年後の2030年に向けて、法人並びにその設置する学校（拓殖大学並びに拓殖大学北海道短期大学、拓殖大学第一高等学校）の設置目的及び使命を達成するため、持続可能な更なる財政基盤と教学体制の構築を目指して私立学校法の一部改正（令和2年4月1日より施行）、第45条第2項「大学を設置する学校法人は『認証評価』の結果を踏まえて法人事業に関する中期的（5年以上）な計画等（教学・人事・施設及び財務等）を作成すること」を受け、常務理事会メンバーを中心に中期的教学並びに経営についての戦略策定会議「拓殖大学2030教学経営会議」を設置しました。

「拓殖大学2030教学経営会議」組織図



時代が求める『拓殖人材』育成のために、学園共同体の総合力を活かして、教育の質保証を重視した効果的な改革に全学を挙げて取り組んでまいります

学校法人 拓殖大学
理事長 岡戸 巧

今、世界は変革の時代を迎えています。そんな時代に強く求められるのは積極性と自主性が高く、あらゆる民族から尊敬される幅広い教養と品格を備え、国内外で活躍できる有為で多様な価値観を持つ人材です。

本学は1900年（明治33年）、台湾協会学校として創設されて以来、台湾の開発事業をはじめ、アジア各地域で広く活躍できる人材(=「拓殖人材」)の育成に積極的に取り組んでまいりました。1919年(大正8年)に制定された校歌には『人種の色と地の境 我が立つ前に差別なし 膏雨(こうう)ひとしく湿さば 磽确(こうかく)やがて花咲かむ 使命は崇し 青年の力あふるゝ海の外』と、人種を超えた国際人としてアジア各地域で使命感に燃えて現地の人々とともに汗を流す卒業生、その地で信頼を得て地域の開発事業や福利の発展に取り組んできた姿と精神が謳われています。

終戦後の1950年代、本学再建に尽力された第10代矢部貞治総長は初代校長桂太郎公の訓示、及び校歌にある『民族の平等と人間尊重、国際友愛の理想』を踏まえ、本学建学の理念を『積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成』と表現し、本学のミッションとして今日まで引き継がれています。

創立百周年記念式典を挙行した2000年(平成12年)、本学は天皇、皇后両陛下のご臨席を賜り、天皇陛下より以下の有難いお言葉を頂きました。

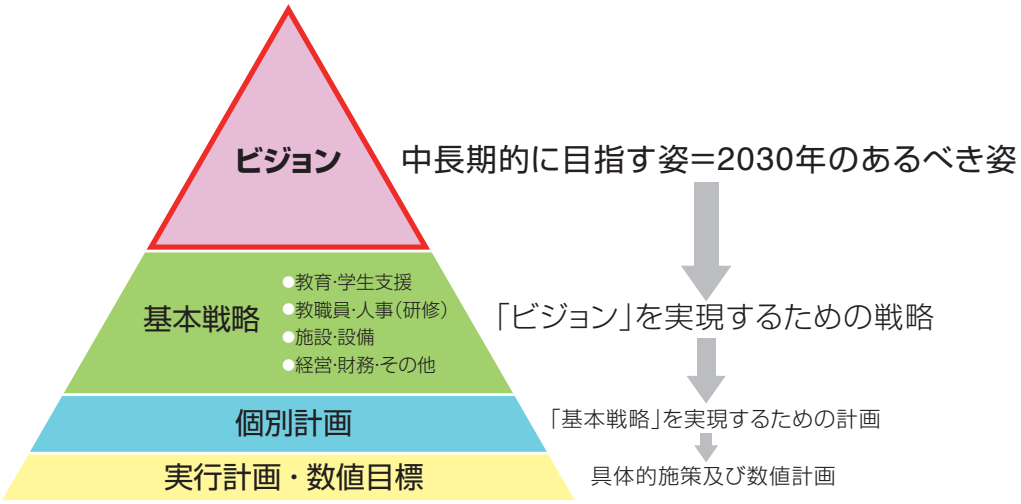
『第2次世界大戦後、日本と日本を取り巻く環境は大きく変わりました。しかし「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成」という建学の精神は今日に生きるものであり、日本が今後ますます国際社会の平和と繁栄に貢献していくためにも、この大学から、国内においてはもとより、開発協力を始めとする様々な分野で世界を舞台に活躍する人々が数多く送り出されていくことを期待しております。』

世界の未来に向け、人口の膨張や減少の問題、AIの進化による経済や社会環境の再編、急速な地球規模の気候変動など、さまざまな課題があります。その重要な課題解決に向け、高等教育機関の果たすべき役割は益々重要なものとなっています。こうした背景の中で本学は抜本的な改革への取り組みを行い、これからも「国際的視野を持ち、積極的にチャレンジしていくタフな人間力を身につけたグローバル人材(= 拓殖人材)」を育成してまいります。2021年には、これまでの成果を踏まえつつ、SDGsのゴール年でもある2030年に向けて「学校法人拓殖大学 中長期計画【教育ルネサンス2030 】」を策定いたしました。

「学園共同体」として各設置校(拓殖大学並びに拓殖大学北海道短期大学、拓殖大学第一高等学校)とともに、時代の要請に応えるべく「教育の質保証」を推進して『拓殖人材』育成の更なる充実を行うとともに 、今まで以上の「財政基盤の強化」に努めてまいります。

これからも、拓かれた国際大学のパイオニアとして、学生・教職員に加え、学友会及び後援会との連携を強め、アジアを始めとするグローバルサウス、そして世界を舞台に本学で学んだことによる確固たる自信と誇りを持って活躍できる「拓殖人材」の育成に全学を挙げて取り組んでまいります。

構成　ビジョンを基に基本戦略や個別計画等を策定

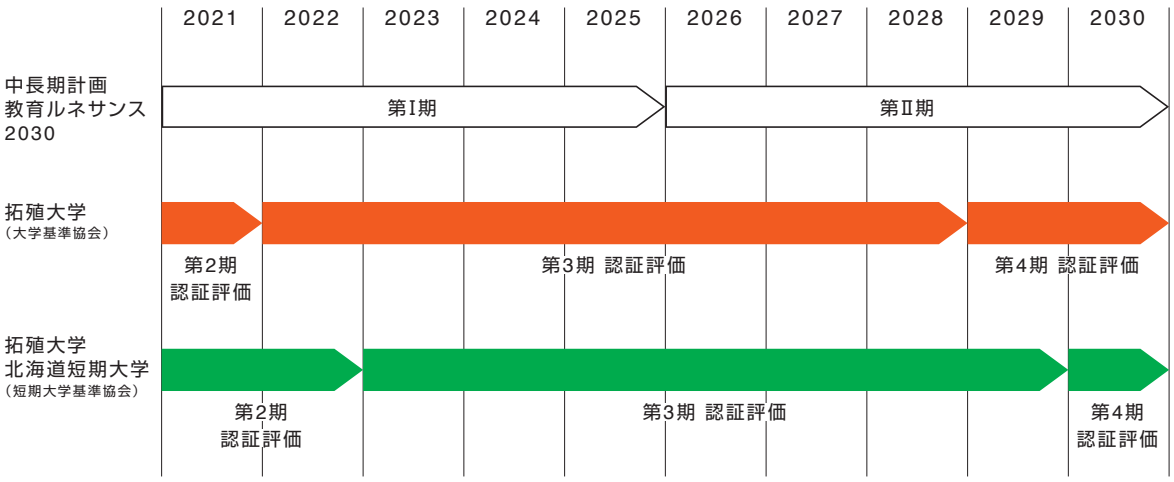


期間　2030年に向けて第Ⅰ期・第Ⅱ期と分けて展開

第Ⅰ期：2021（令和3）年4月～2026（令和8）年3月

第Ⅱ期：2026（令和8）年4月～2031（令和13）年3月

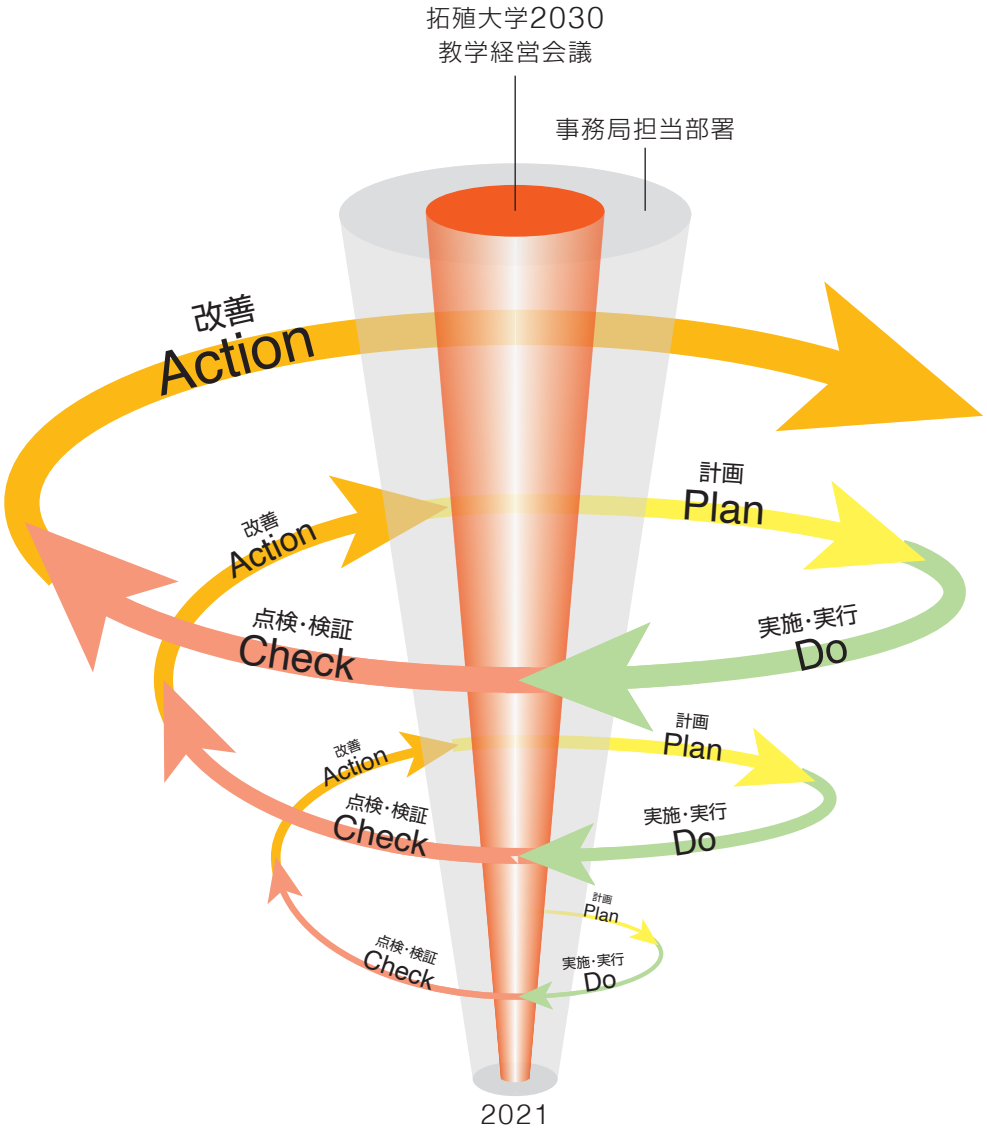
※5年目の2025（令和7）年に計画を見直します。



運営　PDCAサイクルにより中長期計画運営を実施

中長期計画は定期的に進捗状況をチェックするとともに、
PDCAサイクルによる進行管理を行います。また大学基準協会による
認証評価結果や社会状況の変化等により適宜見直しを実施します。

Plan 計画 ▷ Do 実施・実行 ▷ Check 点検・検証 ▷ Action 改善



毎年度の予算編成と事業計画は、中長期計画を基に作成します

拓殖大学

拓殖大学のミッション
（建学の理念）

積極進取の気概と
あらゆる民族から敬慕されるに値する教養と
品格を具えた有為の人材の育成

ビジョン

10年後の社会は増々デジタル化が進むとともに、経済などのグローバル化が一層進むことにより、単一の価値観では対応することのできない多様性に富んだ社会となるであろう。さらに、今回の新型コロナウイルス禍に見られるように地球規模での変化の激しい社会となり、個々人が主体的、自立的に未来を切り拓いていく事が必要となっていくと考えられる。

この様な社会の中で、本学は伝統ある国際大学として、建学の理念に基づき、アジアを始めとした国際社会において活躍できる、「人間尊重」の精神と多様性を受けいれることのできる寛容性を身に付けたグローバルに活躍できる有為な国際人材「拓殖人材」の育成を目指す。

また、変革の激しい現代社会にあって、本学は教職員が協働して、学生一人一人が持っている潜在能力を開花させ、生涯の夢を叶える「専門的職業力」を習得できる質の高い教育を展開するとともに、手厚く充実した学園生活と諸活動を支援して、自らの意志で積極的に人生を切り拓いていく「進取の気概」と、友情を育み他者と協働して社会の発展に貢献できる「豊かな人間力」を具えた有為な青年人材の育成を図る。

教育・学生支援

本学の目指す「拓殖人材」の育成とは、グローバル化した社会の中で、異なる文化や価値観を持つ人たちと共存するうえで必要な、相手を納得させる論理性や人の心を動かすコミュニケーション能力、さらに、他者と協働できる豊かな人間力を持ち、常に公平・公正な立場から判断を行えるグローバルな国際人材のことである。このような人材を育成するため、従来の正規授業に加え、キャリア教育、国際交流、社会貢献、課外教育・課外活動における様々な場面を通じて、責任感、主体性、協調性などを養い、これからの社会人として必要な「国際性」「専門性」「人間性」の涵養を図る。

基本戦略 1 「SDGs」活動を通して『国際協力』『社会貢献』『人間尊重』の精神を身につけた人材の育成

今日、世界的課題となっている「SDGs」(※)については、本学においても既に教育並びに課外活動の一環として取り組んでいる所であるが、昨今の気候変動による度重なる自然災害や新型コロナウイルスの世界的感染拡大、人種差別問題など世界が協力して緊急に取り組まなければならない問題である。特に「国際協力」・「社会貢献」・「人間尊重」の教育理念を持つ本学においては、これらの問題を全学的に研究し、本学学生の教育の一環として全学的に取り組む。

(※)「SDGs」とは、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発のための17の国際目標

個別計画

全学的な「SDGs」教育の展開

拓殖大学 Takushoku University | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

拓殖大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

基本戦略 2 アジアに強い国際大学としての伝統を生かし、大学の国際化の推進を図るとともに多くの外国人留学生を受け入れることにより、多様な価値観を持ち、寛容性に富んだ、グローバルに活躍できる人材の育成

拓殖大学 国際化推進方針（国際化ビジョン）

～ Takushoku University Internationalization Promotion Policy ～

本学は、1900年の創立以来、一貫して「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成」をその建学の理念とし、真の国際大学のパイオニアとして、120年に亘り大学を挙げて国際化を推進してきた。特にグローバル化の更なる進展に伴い、近年は国家間や企業間の競争が激化しており、このような国際社会でタフに活躍できる人材を育成する必要がある。今般その具現化を図ることを目的として、数値化を含め、改めて国際化推進方針（国際化ビジョン）を学内に定め、国際交流事業及び外国人留学生教育支援事業をさらに推進することとする。

個別計画

① 海外留学制度の改革
② アジアに強い人材の育成とそのための教育ネットワークの形成
③ 外国人留学生支援体制の強化及び留学生教育の充実

基本戦略 3 社会の進展に合わせた組織、カリキュラムの改革を通して職業的実践教育の充実を図ることにより、社会の進歩に柔軟に対応でき、就業力・就職力に富んだ人材の育成

今日の文明史的転換点においては、これ迄のいわゆる「会社型人間」からAIなどのデジタル技術を駆使し、何事にも主体的に考え、自らの創造力と責任において行動できる人材が必要とされる。

個別計画

① 教学における内部質保証の推進
② 時代の進展に合わせた学部改革
③ 八王子国際キャンパスの総合的改革
④ 外国語教育の改革
⑤ 大学院改革
⑥ 授業時間の在り方の検討
⑦ 教員の研究力の強化

基本戦略 4 ゼミナール教育の充実を図ることにより、学生の潜在的能力の開発及び創造力と主体的に考える力の強化

個別計画

ゼミナール教育の強化

基本戦略 5 地域連携を通して、地域の活性化や発展に貢献する人材の育成

個別計画

① 地域における社会貢献活動の推進
② 地域における高大連携の推進

基本戦略 6 課外教育・課外活動を通して、変革の激しい社会の中で、自らの強い意志で「未来を切り拓く力」と、多くの人々と協働して社会の発展と福祉の向上に貢献できる「豊かな人間性」を持った人材の育成

これからのAIを中心とした高度のデジタル社会では「豊かな人間性」を持ち、他の多くの人々と協働して仕事のできる人材が必要である。このような人間性を育むためには課外活動が重要であるが、学生、教職員一体となって課外活動をサポートする麗澤会（※）を活用し課外活動の活性化を図る。

（※）麗澤会とは、本学における課外活動を統括する全学的組織

個別計画

① 教職員が協働して行う麗澤会活動やオレンジプロジェクトチームへの学生参加の促進
② ボランティア活動の理論と実践を踏まえた科目の拡充
③ 正課教育と正課外教育の連動による学生・教職員協働のもと、各種プログラムを継続的・発展的に推進
④ 麗澤会体育部活動を通じた拓殖人材の育成とグローバルアスリート育成のための取り組み
⑤ 学生寮における集団生活を通じた人間性の涵養

基本戦略 7 全学的にデジタル化を進めるとともに「ハイブリッド型」授業の構築を図り、新しい時代に対応した教育システムの構築

個別計画

ICT（情報通信技術）を活用した教育の展開

基本戦略 8 本学が望む優秀な学生の安定的な獲得の実現

個別計画

① 各学部のアドミッション・ポリシーに基づく入試制度改革
② 高校と大学の信頼関係の強化
③ 本学への入学意欲を喚起するための取り組みの強化
④ 優秀な学生の獲得と育成に向けた奨学金の活用

基本戦略 9 就職支援の充実を図ることにより、就職率100%を目指し、就職を希望する学生の不安払拭

個別計画

① 学部教員と就職部との連携
② 各種資格取得講座の充実
③ 求人開拓の強化や企業との連携の強化

基本戦略 10 学生生活を安心・安全に過ごすための学生支援の充実

個別計画

① 奨学金制度の整備
② 学生寮の充実
③ 健康管理・相談の体制強化

教職員・人事（研修）

本学の目指す「拓殖人材」育成のため、「教員・教員組織編制の方針」に示す人材を確保するとともに教育力向上、さらには社会のニーズに対応できうる教職員育成のためのプログラムを策定し、実行する。

基本戦略 1 「教員・教員組織編制の方針」に基づく教員組織の更なる充実

個別計画

各学部のST比（在学生数／専任教員数）を基本にした適正な教員数の確保

基本戦略 2 教員の研究活動の更なる充実

個別計画

① 研究成果の可視化と研究業績の公表方法の検討
② 研究費（学部研究費・研究所研究費）の効果的活用
③ 研究倫理教育の充実

基本戦略 3 教職員の資質向上を目指した FD・SD及び教職協働や各種研修制度の構築

FD＝ファカルティ・ディベロップメント　SD＝スタッフ・ディベロップメント

教員においては、教育力を強化する授業改善を目的としたFDの取り組み、職員においても、我が国が「少子高齢化社会」に伴う諸問題を抱えるなか、加速するグローバル化や高度情報化社会への対応など、大学職員に対する業務内容の多様化・高度化・専門化が求められていることから、目まぐるしく社会が変化する状況下で的確に対応するため、SDの強化とともに、機動的に対処できる体制を構築し、教職協働を図ることにより教育力と組織力を向上させる。

個別計画

① 教育職員・事務職員に対応したFD・SDの在り方及び教職協働の一体的取組の構築
② 外部セミナーの利用
③ 若手職員の育成
④ 管理職研修の充実（経営的能力の養成）

基本戦略 4　自然災害（感染症等含む）や不測の事態に備えた危機管理体制の整備

個別計画

① 危機対応の機能向上
② 学内及びキャンパス周辺地域の防災体制の整備

基本戦略 5　教職員の働く意欲や能力向上に繋がる職場環境の整備

教職員の働き方改革や活力ある職場を創出するため、教育環境やその他処遇の改善を図るとともに、計画的な採用と育成を行うようなシステムを確立する。

個別計画

① 教職員の業務効率向上
② 教職員の給与体系や人事評価制度の見直し
③ 働き方改革
④ 多様な人材の活用
⑤ ハラスメント相談窓口の体制強化
⑥ 職員の計画的な採用による人材確保

施設・設備

2000年の創立100周年から取り組んできた拓殖大学教育ルネサンス事業の一環としての文京キャンパス整備事業が2015年4月に完了し、文京・八王子国際両キャンパスの再編をおこなった。現在、開校以来40年以上経過した八王子国際キャンパスの整備事業を2017年からの整備計画を策定し、実行している。また、整備事業開始後、10年経過をした文京キャンパスについても、今後、施設・設備の補修等の計画を策定し、実行する。
施設・設備の改修にあたっては、教育研究の「多様化」、「高度化」、「グローバル化」、「デジタル化」に対応しながら、学生の満足度を上げるとともに、将来構想を踏まえた文京・八王子国際キャンパスのグランドデザインを構築し、中長期的な観点から計画的に取り組む。
また、近年、地震や水害等の自然災害が増加している中、様々なリスクに対応した施設・設備の改修及び保全を行い、キャンパスの安全性向上を図る。

基本戦略 1 ICTに対応した設備の充実

社会の情報化が進むなか、我が国は世界に比べてデジタル化が遅れていると言われている。「Society5.0」[サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society）]時代を見据え、最新の技術動向を踏まえつつ、ICTによる設備の充実を図る。

個別計画

① セキュリティ体制の強化・充実
② ICTを活用した事務効率化

基本戦略 2 図書館の整備・充実

学習環境や教育研究活動の充実のため、図書館の高度化を図るとともに、学生利用率の向上を目指す。

個別計画

① デジタル化への対応
② 時代のニーズに応えた学習・教育研究環境の整備・充実

基本戦略 3 文京キャンパス再開発後10年を迎える施設・設備改修計画の策定・実行

個別計画

① デジタル化時代に対応した施設・設備の整備
② バリアフリー・省エネに配慮した施設・設備修繕計画に基づく改修

基本戦略 4 開校以来40年以上経過した八王子国際キャンパスの施設・設備改修計画の策定・実行

個別計画

① デジタル化時代に対応した施設・設備の整備
② バリアフリー・省エネに配慮した施設・設備修繕計画に基づく改修
③ 体育施設の整備・充実

経営・財務・その他

近年の18歳人口の減少による学校間の競争激化や文部科学省による定員管理の厳格化等これまでに経験したことのない厳しい時代となっている。本学はこれら大学を取り巻く社会情勢等の変化に耐えうる財政基盤を構築するため、収入の安定的確保や多様化を図るとともに、既存事業を見直し、費用対効果を検証し、極力、物件費や人件費の抑制に努める。
また、施設・設備の改修等による財源を確保するため、各種引当特定資産に積極的な積立を行い、内部留保資産の充実を図る。

基本戦略 1 収容定員増による学生生徒等納付金収入の安定的確保

個別計画

社会情勢の変化や志願者動向に即した収容定員増

基本戦略 2 財務比率の改善

経年比較や他校との比較など財務分析を行い、学校経営の判断として健全な財政に役立てる。

個別計画

事業活動収支差額比率の向上と人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率の適正化

基本戦略 3 各種引当特定資産への積立による内部留保資産の充実

個別計画

① 施設・設備の改修・修繕等、将来必要となる原資に対する計画的な積立
② 緊急時における学生への経済的支援の財源確保

基本戦略 4 学生生徒等納付金以外の収入の確保

本学の収入の大部分は学生生徒等納付金と補助金である。18歳人口の減少や定員管理の厳格化、社会情勢の変化により、学生生徒等納付金の安定的確保が厳しくなっている。また、私学助成の拡充が社会から求められているが、積極的な補助金の獲得や寄付金の受入、施設の外部貸出など学生生徒等納付金以外の収入を確保し、収入の安定的確保を図る。

個別計画

① 科学研究費補助金等の競争的資金の獲得
② 募金活動の強化
③ 施設の外部貸出

基本戦略 5 広報機能の強化

本学のあらゆる情報を集め、現況をリアルタイムに発信するとともに本学の特色をWeb等各種媒体を活用して、効率の良い広報活動を展開する。

個別計画

① 多種多様なメディアからの情報収集及び情報発信力の底上げ
② 知名度及び大学ブランド向上に向けた取り組み

基本戦略 6 「学園共同体」として、拓殖大学学友会や拓殖大学後援会及び各設置校（拓殖大学北海道短期大学・拓殖大学第一高等学校）との連携強化・促進

相互理解や連携の強化により、「学園共同体」として力の結集を図り、各組織とネットワークの強化に努め、連携して学生に対する支援を行う。

個別計画

① 拓殖大学学友会、拓殖大学後援会との連携強化
② 拓殖大学北海道短期大学、拓殖大学第一高等学校との連携促進

拓殖大学
北海道
短期大学

建学の理念

拓殖大学の伝統である開拓者精神を継承し、
実践的な知識や技術と豊かな人間性を兼ね具えた、
広く社会の発展に貢献できる
有為な人材を育成することを目的とする

ビジョン

本学を貫く強力な柱は、実践教育、人間教育、地域との連携である。

「農業」「経済」「幼児教育」の3本柱は、1 本ずつは弱くとも、有機的連携を図って、外部の状況に対して適宜強みを発揮する。本学が生き抜くために、建学の理念に沿った学科編成（2学科体制）とカリキュラム体系を維持する。

また、教職協働の質を高め、教育機関として大学全体の能力を向上させ、揺るぎなく「地域における知の拠点」であり続けるため、地域に沿う大学として独自の特色を強く打ち出し、基礎と教養を前提とした実践教育に徹し、「地域になくてはならない大学」として、教職員は積極的に街に出て、人々と触れ合い、街の匂いを嗅ぎ、色を観察し、食を味わうことによって、「地域に愛される大学」としての位置づけを強める。

教育・学生支援

2学科体制を維持し、実践教育・全人教育をさらに推進するとともに、授業方法の改善や拓殖大学各学部との連携を強化し、学びの幅を広げ、学生の主体的学習や活動を支援する。

基本戦略 1　2学科体制の維持

地方にある短期大学という、見方によれば脆弱な存在が、時代の流れに翻弄されながらも50年以上教育に専念できているのは、独自性豊かな教育体系にある。農学ビジネス学科（環境農学コース、地域振興ビジネスコース）、並びに保育学科（造形表現コース、身体表現コース、幼児音楽教育コース）は、それぞれの教育目的に沿った人材育成に最もふさわしい学科体系である。

個別計画

2学科5コース体制の維持

基本戦略 2　授業方法の改善

環境農学コースにおける学びの幅を広げ、これまでの「農業の担い手」の育成から、「食・観光産業の担い手」までを視野に入れて、科目編成と授業内容の充実を図る。さらに、環境農学科と経営経済科を農学ビジネス学科として統合後5年以上が経過するため、教育課程の充実に向けて検討する。また、保育学科における保育者としての専門性と保育実践力の向上を目指して、授業方法の改善・充実を図るとともに、地域の保育現場と連携した実践的・効果的な演習授業の推進を図る。

個別計画

① 農業の学びの幅を広げる授業方法の改善
② 農学ビジネス学科教育課程編成の抜本的見直しの検討
③ 保育学科における授業・演習方法の改善

基本戦略 3　拓殖大学各学部との連携強化

本学は、拓殖大学政経学部の環境演習や国際学部の農業履修において連携実績を挙げている。フロンティアの地にある北海道深川キャンパスとしての位置付けを明確にして、他学部も含めてさらに連携を強化する。

個別計画

① 国際学部農業総合コースの受け入れ継続
② 商学部・政経学部・工学部との連携強化
③ 各学部の入門科目を遠隔で履修可能となるよう検討

基本戦略 4　SDGsの目標と協調する教育

本学を貫く実践教育、人間教育、地域との連携という強い柱は、SDGsの目指す方向に合致している。学習の場においては、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でより良い社会を実現するための目標であることを常に確認しながら授業を進める。

個別計画

① 全教職員を対象にSDGsに関する講習会を開催
② 「講義要項」に各科目のSDGsとの関連を記載

基本戦略 5　実践教育の深化

本学は教養科目を含む基礎科目を前提とした実践教育を最大の特色としているが、さらに総合的に社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけて汎用的学習成果が得られるよう、実践教育の濃度を深める。

個別計画

科目の特性に合わせた実践教育の実施

基本戦略 6　全人教育の更なる展開

全人教育は、そのための特別な科目があるわけではなく、講義、実習、演習などの授業と、拓大ミュージカルやクラブ活動など授業以外の取り組みの過程で、感性や徳性が磨かれ豊かな人間性を備えることができる教育を意味する。本学は、実践教育の深化に加えて、全人教育を推進する。

個別計画

① 伝統ある「拓大ミュージカル」の新たな展開
② 全人教育の推進について大学生活ガイドブックに記載

基本戦略 7　デジタル化の推進とハイブリッド型授業の構築

単なるコロナ禍対策ではなく、学びの質を高め、学生の主体的学習を推進するため、対面授業にオンライン・オンデマンドの遠隔授業を組み合わせた本格的なハイブリッド型授業の構築を目指す。

個別計画

① 学生へのパソコン所有の義務化
② 大教室間の接続環境整備
③ FD委員会による授業改善
　FD ＝ ファカルティ・ディベロップメント

基本戦略 8　就職指導の強化

各学科コースの就職率は、毎年ほぼ100%を維持している。業界・業種研究、関連資格の情報など、学生の多様性に応じた情報提供機能を強化し、学生自らが能動的に就職活動に取り組む環境を整える。あわせて、地元企業への就職者増を推進する。

個別計画

① 就職指導室の名称を就職支援室に改称
② 深川市近隣有力企業の企業説明会の開催（内容の強化・多面化）

教職員・人事（研修）

大学を支えるのは人であり、有為な人材の採用と育成は大学経営の根幹である。教職員の採用、各種の研修等による教職員の能力向上と授業内容の改善に加え、労働環境・教育環境の整備管理面を強化し、学生と教職員が安心・安全なキャンパスのもとで学び、働ける環境を整備する。

基本戦略 1 教職員の採用と待遇改善

教職員の採用に当たっては、専門性はもとより、学生教育に対する情熱、人間性や適格性を十分に考慮する。また、世代間、職位間、性別間バランスに留意し、中長期的視野に基づいて計画的に採用する。なお、入学定員の確保を前提として、職員の待遇改善を図る。

個別計画

① 中長期的視野に基づく教職員の採用
② 教職員の待遇改善

基本戦略 2 SD・FDの継続的実施

SD=スタッフ・ディベロップメント　FD=ファカルティ・ディベロップメント

短期大学設置基準の規定に基づき、SD並びにFDを毎年定期的に実施し、教職員の能力と授業内容の改善を図る。

個別計画

① 教職員研修の実施
② 個人別目標値の設定による職員の意識向上
③ 学生アンケートによる授業改善（アンケート内容の適時見直し）
④ FD講習会の実施

基本戦略 3 ハラスメント防止対策の強化

「拓殖大学北海道短期大学ハラスメント防止等に関する規程（平成22年4月1日制定）」により、アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント防止策を徹底するとともに、不断の見直しを図る。

個別計画

ハラスメント防止対策の徹底

基本戦略 4 労働環境・教育環境の整備

衛生委員会の下に、実験実習農場安全部会を設置し、実験実習農場において活動するすべての教職員及び学生等を対象とした安全教育の計画立案と実施、また事故のない職場づくりを目標とした環境整備を推進する。

個別計画

実験実習農場安全部会の設置

施設・設備

16万㎡に及ぶキャンパスにおける諸施設の活用度をさらに広げる。

基本戦略 1 施設・設備の整備

本学が1992年に深川市メムの現在地に移転して30年以上が経過し、本館棟における給排水設備、農場における実習棟、収穫乾燥施設など、施設・設備の老朽化が進んでいる。

個別計画

① 本館棟・体育館棟における施設・設備の整備
② 農場における施設・設備の整備

基本戦略 2 図書館機能の拡充と地域公共財としての意義向上

「地域における知の拠点」として、利用者の利便性を向上するため、国立情報学研究所が提供する総合目録データベース（Nacsis-Cat）を活用し、本学の蔵書約10万冊とマッチングすることにより、図書館機能をさらに充実させる。

個別計画

図書検索システムの構築

基本戦略 3 農産加工実習室の拡充

2017年4月に農産加工実習室が完成し、深川保健所から食品等の営業許可を得て、一部は販売に供している。今後は、旬の野菜の常温貯蔵技術の研究と実践のために、関連機材等を整備して農産加工実習を充実させる。また、農産物の販売を通じて本学の魅力を発信するため、企画・販売段階では、地域振興ビジネスコースの学生が積極的に関わるプロジェクト化を検討する。

個別計画

① 農産加工実習室の拡充
② 北短農産加工プロジェクトの検討
③ 農産物販売所開設の検討

基本戦略 4 ログハウスの活用

ログハウスは、本学が深川市納内地区から現在地に移転した1992年に本学学友会（現同窓会）から寄贈されたものである。地域とのつながりの一つの象徴となるよう、年間を通して計画的に有効活用する。

個別計画

年間を通した利用計画の検討

基本戦略 5 実験・実習農場の活用と希少農作物のアピール

地力豊かでどんな作物でもよく育つ農場を校舎に隣接して保有していることは、本学の最大の特徴の一つであり、強みである。食と農の大切さを肌身で実感できる場として、環境農学コースだけでなく全学で活用するとともに、本学の財産である黒米品種や希少作物、新規作物の存在を対外的にアピールする。

個別計画

① 地域振興ビジネスコースにおける農場活用の検討
② 農場公開デー等による一般市民への公開
③ 地元ホテルにおける「拓大農場コーナー」の設置

基本戦略 6 産官学共同プロジェクトの推進

日常的に産（企業、農家等自営業者、商工会議所、農協等）や官（市役所等）と濃密な関係を維持し、産官学の共同プロジェクトを立ち上げ、本学教職員と学生が核となってプロジェクトを推進する。
（学内における研究シーズや成果を広く発信していくことにより、他大学や研究機関及び企業との共同研究に発展させ、競争型外部資金の獲得を推進する内容については、次項目「経営・財務・その他」基本戦略2に記載）

個別計画

① 産官学共同プロジェクト立ち上げに必要な学外関係の構築
② 「深川市地酒プロジェクト」FSの実施
FS=フィージビリティスタディ

基本戦略 7 拓殖大学北海道研修所の活用法の検討

拓殖大学北海道研修所は、深川農業高等学校の廃校後拓殖大学が所有し、施設は研修所向けに改造し、スポーツ合宿や拓殖大学学生の宿泊施設などとして活用されている。ただし、活用頻度は低く、老朽化も進んでいることから、費用対効果も含め、今後の活用法を検討する。

個別計画

拓殖大学北海道研修所の活用法の検討

経営・財務・その他

入学者定員の確保を当面の目標として、早期に毎年度の資金収支を均衡させ、財政基盤を強固にし、安定した経営基盤の基で未来へと続く教育の場であり続ける。また、学生生徒等納付金以外の収入確保を図る。

基本戦略 1 資金収支の均衡

入学定員割れを解消して学生生徒等納付金の増加を図り、単年度資金収支の均衡を果たす。

個別計画

入学定員確保による単年度事業活動収支均衡の実現

基本戦略 2 学生生徒等納付金以外の収入の確保

科学研究費補助金など外部資金の積極的導入を図るため、共同研究規程を策定。また、教育研究施設に関わる寄付金の増加等、学生生徒等納付金以外の収入の確保を図る。本学は地元深川市から毎年多大な支援をいただいている。今後とも、学生・教職員が深川市のイベントや各種協議会等に積極的に関わり、深川市とウィンウィンの関係を構築することによって、継続して支援をお願いしていく。

個別計画

① 外部研究資金の獲得推進
② 共同研究規程の策定
③ 教育研究施設拡充資金の募金活動強化
④ 深川市からの支援の継続

基本戦略 3 地域になくてはならない深川市唯一の高等教育機関としての能力向上と発信能力の強化

深川市とその周辺地域における知の拠点であり続けるため、本学全体の能力を向上させ、発信能力を強化する。そのため、学校経営に関わる諸問題について審議する学長直轄の組織として、拓殖大学北海道短期大学経営戦略会議を設置し、その下に各委員会を再編整備する。広報委員会を再編設置することによって発信能力を強化し、多様なメディアを活用して情報発信を推進する。また、知の拠点として、単なる情報提供にとどまらず、教育や研究の成果を不断に発信する。

個別計画

① 拓殖大学北海道短期大学経営戦略会議の設置
② 広報委員会による多様なメディアを活用した情報発信
③ 拓殖大学北海道短期大学研究紀要の発行と査読化の検討
④ 「農業セミナー」「農場公開デー」「保育セミナー」等の実施

基本戦略 4 学生募集力の強化

本学が未来へと続く教育の場であり続けるためには、本学収入の大部分を占める学生生徒等納付金の増大が重要であり、拓殖大学北海道短期大学経営戦略会議の下に、入試委員会を再編・設置し、募集力を強化して入学者を増やすことに全力を挙げる。

個別計画

① 経営戦略会議による入試戦略の策定
② 入試委員会による行動計画の立案・実行
③ 農業分野における高大連携
④ 保育分野における高大連携の検討

基本戦略 5 拓殖大学学友会・拓殖大学北海道短期大学同窓会並びに本学後援会との関係強化、経営懇談会による支援

学友会・同窓会に支援強化を働きかけ、学生募集の支援を要請する。本学後援会の会員を増やすために地域のあらゆる層の方々と一層親密な関係を築く。また、地元有識者で構成される経営懇談会を定期的に開催し、本学への理解と支援を深める。

個別計画

① 拓殖大学学友会、拓殖大学北海道短期大学同窓会との連携強化
② 経営懇談会の定期的開催

基本戦略 6 創立60周年記念行事の準備と挙行

創立60周年を迎える2026年度に向けて、その内容等を検討する。その際、厳粛な記念式典開催に固執せず、母校の誕生をともに祝うホームカミングデー要素を取り入れ、卒業生、現職・退職教職員との人的結びつきを深める方法を模索する。また、地域との繋がり（後援会、経営懇談会等を通じた繋がり）や拓殖大学学友会・拓殖大学北海道短期大学同窓会といったステークホルダーとの関係も重視し、令和の時代に相応しい新しい式典形態を取り入れるよう工夫・検討する。

個別計画

① 創立60周年記念行事準備委員会の設置
② 創立60周年記念行事の挙行

拓殖大学
第一高等学校

ビジョン

これまでに経験したことがない時代の転換期を迎える中、建学の理念と教育目標を踏まえ、“将来の学校像”つまり“School Vision”の方針を定め、教育界の急激な変遷に柔軟に対応する戦略的なSchool Managementの構築を目指していきます。

時代の変革期の中でも建学の理念にある“敬慕される国際性豊かな人材の育成”や校歌にある“豊かな人間性の育成”は、学校の基盤として脈々と流れ、教育目標を作り上げています。教育目標は“未来を切り拓く力”つまり“生きる力”の育成を目指し、明るく近代的な学び舎のもとで生き生きと勉強やクラブ活動に励み、主体性と創造性、そして豊かな人間性を育てていきます。

“世界を舞台に、世界を拓け”を目指し、海外修学旅行、海外留学ならびに、独自の先進的な英語研修プログラムを通して未来の国際人としてのセンスを身に着けた国際性豊かな人材を育成していきます。

生徒の学習支援や教育環境では、Society5.0の実現に向けた社会に対応するため、積極的なICT（情報通信技術）の導入をはじめ、双方向のオンライン授業やAI教室の整備の推進に力を注いでいきます。

学校を超えた学び舎として地域交流を推進しつつ、生徒の主体的で深い学びや気づきを探究できる場として地域連携をさらに充実させるとともに、これからも本校の目指す「地域から敬愛される学園」を実現していきます。

教育方針

心身ともに健全で、よく勉強し、素直で思いやりある青年を育成する

教育方針を「授業」・「HR活動」・「課外活動（クラブ・委員会活動）」で貫いていく

「知性＝ものを考える力」と「人間性＝人を思う心」を兼ね備えた人間を育成する

- 自分がやらなければならないことをしっかりと自覚しやっていける人間
- 自分でしっかりと考え、自分の人生を造っていける人間
- 自分の知性と経験でしっかりと判断していける人間

アクションプラン

1 教育課程

① 新カリキュラムを導入
＜新カリキュラム＞の特徴
・生徒が学習を楽しく思い自主的な学びを伸ばしていけるようなカリキュラム
・学年暦、行事の見直しによる授業日数（32週）の確保

② 生徒の志望に即した効率的なコース、クラス編成の確立
・各自の志望に合わせた効率的な指導を可能にする編成
・内部進学者を増やしていけるような編成

③ 英語の4技能を伸ばしていけるような工夫
・英語によるプレゼンテーションを行うためのプログラムの導入
・修学旅行で英語によるプレゼンテーションなどを行う学校交流会の実施
・ICTの活用等で全員が最低英検2級を取得できるような授業等の組み立て

④ SDGsに沿った形で生徒の主体的な学びを創造する探究授業の取り組み

⑤ 教育活動を効率的に行うためのICTの導入
・授業において生徒のDevice利用の拡大
・対面授業とオンライン授業を組み合わせてのハイブリッド型授業の構築
・外部媒体を用いての効率的な学習

⑥ 自学自習のできる「拓一モデル」を確立

2 学校経営

① 入学定員の確保
② 施設・設備の改修・修繕等に備えるための計画的な積立
③ 有事にも学びを止めずに授業を行えるオンライン授業を交えた安定した授業制度の確立
④ 学校業務を安定して行える教員の採用計画と校務分掌における仕事の効率化
⑤ 生徒が安心して学校生活を行えるような防災対策の整備
⑥ PTA、後援会、校友会との連携強化

3 高大連携について

① 拓殖大学の教授の講義を経験することで国際的な視野を育てる
② 国際理解の講義や修学旅行の事前研修
③ 拓殖大学の留学生と交流
④ 拓殖大学の高校生講座に参加
（後藤新平・新渡戸稲造記念全国高校生・留学生作文コンクール、高校生のためのアジアの言語と文化、オレンジカップ、ボランティアの参加等）

4 生徒支援について

① 奨学金の充実
② 芸術鑑賞会・海外留学（ニュージーランド研修、ターム留学）
③ PTA、後援会、校友会からの支援

5 地域連携について

① 公立学校運営協議会、私立学校支部会、公立私立学校間の連絡、情報交換・交流を強化
② 公的機関との連携
・地域の役所、駅、警察、消防、周辺の教育機関との連携強化
③ 地域活動への参加
・地域行事、ボランティア等への参加（交通安全運動・地域清掃活動）

6 広報（生徒募集）

本校の入試状況を踏まえ、募集活動の情報収集に努め、教育の動向を把握しながら、ICTを用いて活動の一層の充実を図る。

① PC、スマホ等のデジタル広報及び動画広報の充実

7 教育環境整備

2004年度の校舎全面移転より17年が経過し、施設・設備の更新並びにICT教育を促進するための環境設備を整える。

① 施設・設備改修計画に基づく改修・修繕
② ICTに対応した設備の充実

校歌

制　定／1919（大正8）年
作詞者／宮原民平
作曲者／永井建子

（一）
右手に文化の炬をかかげ
扶桑の岸に声あげて
闇は消えよと呼ぶは誰ぞ
人は醒めよと呼ぶは誰ぞ
嗚呼輝ける雄渾の
姿ぞ我の精神なる

（二）
雲は焔の色に飛ぶ
南国水はたぎるとも
春光永久にへだてたる
北地に氷とざすとも
仰いで星を見るところ
拓かでやまじ我が行手

（三）
人種の色と地の境
我が立つ前に差別なし
膏雨ひとしく湿さば
磽确やがて花咲かむ
使命は崇し青年の
力あふるる海の外

沿革

～ History ～

1900	明治33年	台湾協会学校設立（初代校長桂太郎） 富士見町仮校舎で授業開始、1期生100名とともに拓殖大学の歴史が始まる
1918	大正 7年	拓殖大学（専門学校令による）に改称
1919	大正 8年	校歌制定（創立20周年記念運動会で発表）
1922	大正11年	大学令による東洋協会大学設立
1926	大正15年	東洋協会大学を拓殖大学に改称
1946	昭和21年	紅陵大学へ名称変更
1948	昭和23年	紅陵高等学校を設置認可
1949	昭和24年	新制紅陵大学設置認可（商学部・政経学部）
1950	昭和25年	紅陵高等学校と正明中学校・高等学校が合併し、正明中学校・高等学校と改称
1951	昭和26年	紅陵大学大学院（現：拓殖大学大学院）設置認可
1952	昭和27年	拓殖大学に校名復元
1960	昭和35年	正明高等学校を拓殖大学第一高等学校と改称
1966	昭和41年	北海道拓殖短期大学設置（農業経済科）
1972	昭和47年	拓殖大学に留学生別科（現：別科 日本語教育課程）設置
1977	昭和52年	八王子キャンパス（現：八王子国際キャンパス）開設 拓殖大学に外国語学部設置
1980	昭和55年	北海道拓殖短期大学に保育科設置
1987	昭和62年	拓殖大学に工学部設置
1990	平成 2年	北海道拓殖短期大学を拓殖大学北海道短期大学と改称
2000	平成12年	拓殖大学に国際開発学部（現：国際学部）設置 天皇皇后両陛下ご臨席のもと創立百周年記念式典を挙行
2015	平成27年	文京キャンパス整備事業完成
2020	令和 2年	拓殖大学創立120周年

TAKUSHOKU UNIV.

2030
NEW ORANGE

拓殖大学「教育ルネサンス2030」による人材育成で明るく希望に満ちた地球になることを願い、"グローバル・オレンジ"として新たにマークが誕生しました。
オレンジといえば、果実。フレッシュで瑞々しい果実。オレンジといえば、拓大のシンボルカラー。未来を拓く生命力をあらわします。世界を拓く果実（＝人材）を育てる。全学を挙げての人材育成がスタートします。

学校法人　拓殖大学

拓殖大学　文京キャンパス 〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14
八王子国際キャンパス 〒193-0985 東京都八王子市館町815-1

拓殖大学北海道短期大学　〒074-8585 北海道深川市メム4558

拓殖大学第一高等学校　〒208-0013 東京都武蔵村山市大南4-64-5

中長期計画は
ホームページでも
ご覧いただけます

発行：2023.8